

キャリア継続は大変。 その困難を乗り越えて、大きな実りを手に

首藤 恵子 崇城大学薬学部薬理学研究室助教

教授の熱い姿勢に、いたく感銘し、
この道へ進むことを決意

熊大薬学部に入學した時から、漠然とはありますが“薬剤師”になることが目標でした。3年生の終わりに研究室配属があり、既に臨床系の研究室を第一志望に決めていたのですが、友人に誘われて、たまたま甲斐広文教授のお話を伺う機会があったのです。「いまだ有効な治療が確立していない難治性疾患に対する新たな創薬ターゲットを見つけるのだ！」という先生の研究に対する熱い思いと姿勢に感銘を受け、第一志望を、アクティブな研究で定評のあった甲斐教授の研究室に変更しました。これが私の人生の岐路となった出来事でした。

現在は、抗炎症分子の発現制御メカニズムと慢性炎症性疾患との関連に関する研究に携わっています。世界で「まだ誰も知らないこと」を発見し、学会発表を通じて世間に認知されることで得られる充実感、発見に関する論文に自分の名前が掲載され、自分自身の仕事として後世まで残ることが、この仕事の一番の魅力であり、やり甲斐だと思っています。

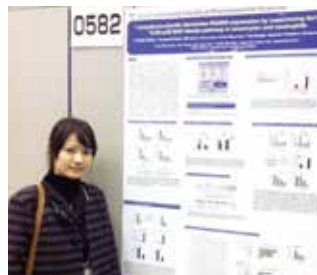


ニューメキシコ州にあるLovelace Respiratory Research Institute。アメリカでの研究生活は大変貴重な経験だった

働くママ・研究者にとって
周囲の理解と協力は不可欠

2歳になる子どもがいますが、子どもが生まれてからの研究生活は一変しました。好きなだけ実験に明け暮れていた時期とは異なり、研究や自分のための時間はかなり限られたものとなりました。子どもの突然の病気で保育園に呼び出されることもしばしば。必然的にワークタイムが減って思うように研究が進まず、また育休復帰後の勤の鈍りもあり「育児と仕事の両立ができるのか」と悶々と悩んだ時期もありました。しかし、同じ分野で働く研究者の夫の理解と協力を得て、共同で子育てを行いつつ、なんとか生活と仕事のバランスをとっています。

これからは結婚・出産を経て仕事を継続する女性がますます増えると思いますが、それにはパートナーや親、職場の方々などの理解と協力が必要不可欠。自分ができる仕事は進んで引き受ける姿勢を持つと同時に、上手に周りの協力を得ることで困難を乗り越えていってほしいなと思います。その分、自分に跳ね返ってくる実りも大きいはずですよ！



2012年福岡で開催された分子生物学会年會でのポスター発表の様子



Keiko SHUTO

薬学部
博士課程
研究室(研究員)
大学教員

研究の結果を自分の仕事として後世まで残せることが一番の魅力

One day

6:00 起床
8:00 大学へ
9:00 実験、講義、学内の業務
18:00 終業
18:30 保育園へお迎え
19:30 夕食
20:30 お風呂
21:30 子どもを寝かしつける
→家事・仕事など
24:00 就寝

◎気分転換・リフレッシュ方法
家族と一緒に外出したり、家でのんびりすること
旅行

profile

しゅとうけいこ／福岡生まれ。熊本大学薬学部卒業後、同大学院薬学教育部博士課程を修了。博士後期課程では約1年半アメリカ ニューメキシコ州にあるLovelace Respiratory Research Instituteで研究員として滞在。帰国後、崇城大学薬学部薬理学研究室助教として勤務。抗炎症分子の発現制御メカニズムと慢性炎症性疾患に関する研究に携わる。

アンケート
より

Q.結婚生活と仕事を両立させるポイントは？

- 家族や周囲の理解、特に夫の理解は不可欠
- 優先順位を決めればスムーズにいく
- 自分が頑張る覚悟があれば…